

# 県政フラッシュ

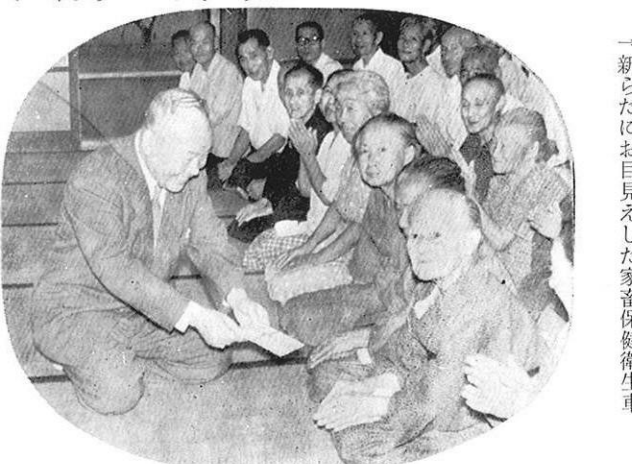
↓ 秋田国体へ……県庁前を出発する国体旗リレー



↓ はなやかにブラジル展開幕、テープを切る副知事(9.8)



年よりの日に知事から贈物・熊本市内(老人ホーム)

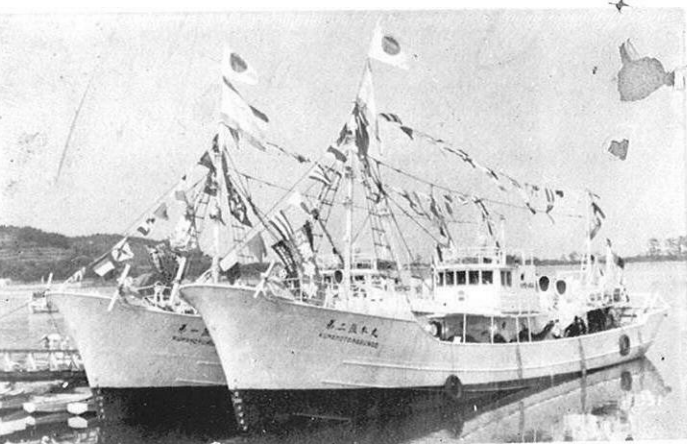


→ 新らたにお目見えした家畜保健衛生車

↓ 第8回県社会福祉大会ひらく(9.19)



↑ 国体に出場する本県選手団の結成式



↑ 竣工した県立天草水産高校の練習船第一、第二熊本丸



↓ 台風18号県に来襲、被害約18億5千万円(9.15~16)



## 港と船の窓口

熊本県水俣港務所

### 港と船の安全を

港務所の仕事の大半は管理事務である。港湾施設(例えば棧橋、岸壁、荷揚場、船つき場、港湾用地など)を管理するほかこのような施設の使用料の徴収事務がある。

仕事の性質上、比較的味味な存在にみえるが、港湾の保全や船舶の調整には大切な役割を果している。災害ともなれば、海員組合を通じて警報を流し、各船舶の安全をはかっている。

### 躍進する水俣港

水俣港務所は水俣港の開港(大正十一年)と同時に設置された。その後水俣港の発展はめざましく、三十一年には貿易港三十五年には重要港湾として指定された。年平均の入港船は一万三千隻。最近では外国の貿易船の入港もかなり多い。

港内での船の安全と作業便宜をはかるために、巡視はいろいろ細かい相談にも応じ、いわば水先案内的役割を果たす場合もある。

三十三年度から五カ年計画で始められ大型船舶用(五千トン級)岸壁の完成も間近い水俣港の発展とともに、港務所の役割も一層大きくなるわけである。

所長は塩田一雄氏。所在地は水俣市百間。電話は水俣四四九。(写真は水俣港)

## 県の機構改革と人事異動

県では、八月二十九日、次長を含む課長補佐級以上六十四人の異動と、農林、土木両部の機構改革を発表しました。

### 機構改革

★課の名称変更

農業経済課→農政課  
農産課→果樹特産課  
林業課→林政課  
経営課→林産課  
河港課→河川課

★農産課が果樹特産課に名称を変更すると同時に、これまで行っていた米、麦、農機具などの仕事を農業改良課に移し、果樹特産課は果樹やソ業を主として担当。また農業改良課に属していた専門技術員は果樹特産課に移されました。

(人事課長)▽総務部企画室長(有明臨海工業地帯開発調査本部総務班班長)河端脩(民労部次長)▽総務部付(同調査班班長)川辺正人(電気局次長兼事務部付)▽兼総務部付(同補償班班長)横田義夫(商水部次長)▽総務部付(同企画班班長)松下勝(農産課長)▽総務部人事課長 井本則隆(球磨事務所長)▽同地方課長 長岡登(天草同)▽農林部農政課長 汐持正徳(農経課長)▽同果樹特産課長 和田広実(農業試験部主

### おしらせ

### 県職員の採用試験

県人事委員会、県職員採用初級・上級試験を次のとおり行います。

### (受験資格)

初級・上級とも学歴・経歴、性別は問いませんが

「初級」は、昭和十三年四月二日から昭和十九年四月一日までに生れた者で、高等学校卒業程度の学力が必要です。

「上級」は、昭和七年四月二日から昭和十三年四月一日までに生れた者で、大学卒業程度の学力が必要です。

県人事委員会、県職員採用初級・上級ともきたる十月二十九日(日曜日)

「初級」は、熊本市、八代市、本渡市の三カ所、

「上級」は、熊本市のほか東京都で行います。

(受付期間)

九月二十五日から十月十日まで

申込書は各県事務所か県人事委員会にあり。

郵便で請求される方は、十円切手をはたてて先明記の返信用封筒を必ず同封して下さい。